

災害に備え共助力を強化

助け合いの仕組み「地区防災計画」を作成

災害時に重要な地域の共助

大規模な災害が発生した場合、行政機関の被災によって、事態への対応が困難になり、支援の遅延などが予測されます。東日本大震災では、行政機能がまひした地域において、自分の命は自分で守る「自助」や、地域コミュニティにおける助け合い「共助」が、避難や避難所の運営などで、重要な役割を果たしました。こうした経験を踏まえ、市は、地域の共助力の強化を目的とした地区防災計画の作成を支援するため、防災まちづくり活動支援事業を行いました。

住民主体で作成する地区防災計画

今回、同事業に参加した平城山地区、小名浜玉川町

地区、内郷高坂町地区が、同計画の作成に取り組みました。

三地区では、住民の皆さんが主体となって、話し合いや、地域の特性・課題を知るための「まちあるき」などをワークショップ形式で行いました。

そして、話し合った内容や、まちあるきで分かった課題などを項目ごとに整理し、地区で共有できる共助の仕組みとして、同計画を作成しました。



実際に歩いて地区の危険箇所などを確認

地区防災計画の概要

住民の皆さんが主体となって作成した同計画には、次の内容が掲載されています。

- 地域特性と予測される災害
 - 地区の歴史や地形、土地利用、危険箇所の指定状況など、地域の特性
 - 過去の災害や想定される災害、防災に関する課題
- 地区ハザードマップ
 - 地区で発見した危険箇所や場所ごとの注意事項
 - 避難場所や公園、公共施設など
- 活動の方針と計画
 - 地区が目指す防災・減災のまちづくりに向けた活動方針
 - 日頃の取り組みや、防災の取り組みを行う組織体制など
- 災害時の活動
 - 災害が発生した場合の初動行動や避難に関する事項
 - 応急処置の方法、避難所の運営方法
 - 障がい者や高齢者、お子さん等の自力での避難が困難な方への支援策など
- 実践と検証
 - 地区主体で行う防災訓練の日程や内容、実施主体
 - 同計画の見直し、管理に関する事項



3地区で作成した地区防災計画



さまざまな団体と話し合い組織体制を整理

お問い合わせ
危機管理課
危機管理係
22・7551



テントの張り方などを学ぶ訓練

地区で防災を考える

災害はいつ、どこで発生するか予測できないため、日頃からの備えが大切です。地区の危険箇所等を把握し、適切な避難方法や避難に助けが必要な方への支援策など、防災や災害時の対応について、地区全体で考え備えるために、同計画は非常に有効です。

また、地区での役割や協力体制を構築することで、コミュニティの活性化にもつながります。防災・減災に向けて、各地区で共助力を強化していきましょう。※同計画の作成について、同課または各支所で相談を受け付けています。

地区防災計画の作成を振り返って

2年にわたり住民の皆さんが協力して、作成に取り組んできた3地区の代表者に、これまでの過程を振り返って感じたことなどについて、インタビューしました。

○平城山地区



櫻田憲央さん

自分たちの町は自分たちで守る、自分たちの命は自分たちで守るという意識が地区に浸透したと感じています。計画をベースとして取り組みを具現化するのには、私たち住民の力です。今後は、体制の見直しなどにも取り組みたいです。



地図を用いて地区の課題を整理

○小名浜玉川町地区



下野信一さん

回数を重ねるごとに参加者も増え、活発な意見交換が行われるなど、防災意識はどんどん高まってきました。取り組みを継続して行えるような組織体制を構築し、地区の状況に応じて、毎年、計画の見直しを行っていきたいです。



住民発表会で成果を報告

○内郷高坂町地区



鈴木美江子さん

地区の住民が行政に頼るばかりではなく、自分のことは自分で守る、自分たちのことは自分たちでやるという意識を持つようになりました。今後は、小・中学校とも関わりながら、若い世代との連携を活発化していきたいです。



課題を踏まえ対応策を検討

特集

特集